博愛祭を終えて

看護学科第 45 期生　小川　真実

令和 7 年 7 月、熊谷市医師会看護専門学校の一大イベントである「博愛祭」が開催されました。毎年、准看護学科と看護学科の学生たちが協力して行うもので、今年は准看護学科との最後の合同イベントでした。学生の主体性を通して創造性、協調性及び問題解決能力を育むという博愛祭の目的を達成するために「一致団結　～心をひとつに、地域仲間とともに～」というテーマのもと、皆で主体的に取り組みました。前年度は先輩に頼りきりでしたが、今年度は後輩たちをリードする役割を果たすために、早くから念入りな準備と度重なる話し合いを行いました。仕事や家事・子育てをしながらの準備は、決して楽なものではありませんでした。しかし、皆で同じ目的に向かって準備する取組みは、とても有意義な時間でした。博愛祭当日は、200 人を超える地域の方々や学生関係者・卒業生が来場し、大成功で終えることができました。私自身はもちろん、他の学生達も楽しんで参加できました。

今回、実行委員長を務めて、全体をまとめることの難しさを学ぶことができました。それぞれの意見を話し合える環境はとても良かったのですが、時には意見の食い違いもあり、報連相（報告・連絡・相談）の大切さを学びました。また、自己を客観的に見つめられ、他者を尊重しながらお互いに成長が図れる機会となりました。実行委員長として至らない点も多々あったと反省し、落ち込むこともありましたが、今回学んだことは今後の授業や演習、臨地実習でも生かされると考えています。授業や演習、臨地実習は主体性と協調性をもち取り組んでいく必要があります。

博愛祭で深まった絆と、これまで学んできた看護に必要な知識や技術をいかし、クラスメイト全員で「国家試験に合格して看護師になる」という目標を達成したいと考えています。